

「未来の学びコンソーシアム」事務局の活動内容概要

2019年5月28日

「未来の学びコンソーシアム」事務局

1. 平成30年度プログラミング教育取組状況調査 結果概要

アンケート調査名：

「平成30年度教育委員会等における小学校プログラミング教育に関する取組状況等について」
(文部科学省委託事業)

- 調査期間：2019年2月～3月
- 調査対象：市区町村組合教育委員会 1745 教委 回答：1011 教委（回答率 58%）

1-1. ステージ分類別の経年変化

- 半数以上の自治体が学校で授業を実施していると回答 前年度 16.1%→52.0%
- 特に取組をしていないステージ0が大幅減少 前年度 56.8%→4.5%
- 自治体規模が大きいほど取組が進んでいる

（前年度は地域差を示したが、当該地域に含まれる大規模自治体（指定都市・中核市・特別区・市）の割合に差があることを考慮し、今回は自治体規模別での違いを分析した）

1-2. 平成30年度プログラミング教育の取組

- 多くの取組について、自治体等の規模が小さいほど遅れている

1-3. プログラミング教育に関する担当者の配置

- プログラミング教育の担当者が配置されていると、「情報収集」がされている
- 「専任または兼任の担当者」が配置されていると、「授業実施」が進んでいる。他

1-4. プログラミング教育に関するその他の調査結果

フィルタリングは自治体規模が小さいほど設定されておらず、Youtube等の「動画アクセス」ができる割合は逆に大きい。他

1-5. プログラミング教育を推進する際の課題

- 最も大きい課題である「人材不足」が全体を通じて 90.3%で、自治体規模が小さいほど割合が大きい。

- 「プログラミング教育がわからない」ことが課題である「村・組合」の割合は 65.6%で「指定都市・中核市」の2倍以上大きい。他

1-6. 本調査の結果を踏まえた今後の取組課題

- ① プログラミング教育の基本に関する理解について
- ② プログラミング教育の授業に適切な教材と指導方法の提供について
- ③ 自治体等の規模に応じた支援について
- ④ プログラミング教育の担当者に対する支援について

2. 調査での課題を踏まえたコンソーシアムの取組について

課題③④については、自治体規模が小さいほど担当者の経験が十分でないという調査結果から、同時に施策が打てる

3. プログラミング教育の基本的な考え方の理解を高める（課題①）

3-1. 市町村教育委員会のプログラミング教育担当者等向けセミナー

（文部科学省委託事業）2019年1月～3月、全国35箇所で開催

3-2. 政府広報ラジオによるPR

5/11放送「秋元才加とJOYのWeekly Japan!!」 JFN38局オンエア

<課題①に関連した過去の取組>

- YouTube Kan&Aki チャンネル
- 小学校プログラミング教育の手引

4. プログラミング教育の授業に適切な教材と指導方法の提供（課題②）

4-1. 小学校プログラミング教育に関する研修教材

小学校プログラミング教育に関する教師の自習・研究や校内研修等に活用できる研修教材（映像教材・テキスト教材）を作成（小学校プログラミング教育の研修用教材等開発事業：文部科学省委託事業）

<過去の関連した取組>

- コンソポータルの「実施事例」「教材情報」

4-2. 「みらプロ」の進捗状況報告

- 2月18日（月）、文部科学省3階講堂にて、ご協力いただく企業を迎え、柴山文部科学大臣による記者発表会を開催
- 5月16日時点 申込数788件（重複データ除く）、実施予定数539件
- 各社1校の実施事例を取りまとめ、コンソポータルに掲載予定
- 2020年1月にシンポジウム（案）を計画

4-3. 2020年度から使用される教科書におけるプログラミング

- 4/26 コンソWEBサイト「小学校を中心としたプログラミング教育ポータル」内の、新着情報記事に掲載
- 教科書展示会：法定展示会2019年6月14日（金）より、14日間

4-4. 小規模自治体などの取組の遅れている教委サポートモデル（案）

5. その他の取組

5-1. プログラミング教育に関する海外事情調査プロジェクト 国立教育政策研究所

5-2. 中・高校におけるプログラミング教育支援（特に中学）

以上